

## 啓発フォーラムの実施結果について

## 1 参加者数

(1) 事前申込者数 309人

(2) 参加者数 334人

(3) 参加者内訳（事前申込者）

・ 県行政関係者	42人	・ 国行政関係者	13人
・ 司法関係者	28人	・ 福祉関係者	189人
・ 医療関係者	6人	・ その他	31人

## 2 内容

(1) 基調講演について

県の推進協議会委員長でもある千葉大学の後藤弘子教授から、「再犯防止のために私たちにできること」と題して以下のテイクアウトメッセージを示していただき、①近年の犯罪動向、②再犯防止推進法及び国の再犯防止推進計画、③都道府県の取組及び千葉県の取組、④犯罪を繰り返す人に対する支援の必要性について、講演をいただいた。

【テイクアウトメッセージ】

- ・ 再犯防止ではなく、困難を抱えていながらつまずいた人の生きるための支援を行う
- ・ つまずきを生活の中で支援することで、結果的に再犯がなくなることをめざす
- ・ 再犯防止は結果である

(2) シンポジウムについて

「社会的孤立から共生へ」と題して、県からの報告を含め、各登壇者から、犯罪をした人に対する支援活動の実践について発表いただいた。

ア. 第1部「当事者の声を聞く」

①夷隅圏域中核地域生活支援センター、②生活困窮・ホームレス支援ガンバの会、③市川圏域中核地域生活支援センターの各支援機関で生活支援を受けた犯罪をした人本人のインタビュー音声を紹介し、当事者の語りから、つながることの重要性を訴えた。

イ. 第2部「千葉県地域再犯防止推進モデル事業報告」

千葉県健康福祉部健康福祉指導課から、千葉県における再犯防止の考え方と、現在の取組内容について説明した。

ウ. 第3部「社会的孤立から共生へ」

犯罪をした人の更生支援を行っている①認定NPO法人生活困窮・ホームレス自立支援ガンバの会の副田一朗理事長、②神奈川県NPO法人なんとかなるの岡

本昌宏共同代表、③千葉県地域生活定着支援センターの岸恵子センター長に登壇いただき、各登壇者から活動の実践報告をいただくとともに、犯罪をした人の社会に置かれた状況と、これら犯罪をした人の更生支援を進めるための社会のあり方について、課題提起と求められる社会像について意見をいただいた。

### 3 アンケート結果

(1) 回答数 81人 (回収率24.3%)

#### (2) 所感

犯罪をした人の社会復帰をテーマとして、県における再犯防止の取組を周知するとともに、取組に対する理解と協力を得ることを目的として開催したが、アンケート結果は、大多数が肯定的な意見であり、また、更生支援を福祉の新たな課題と捉え、学びがあったとする意見や、自らも取り組みたいとする意見があった。

#### (3) 主な意見

##### ア. 基調講演について

再犯防止は、「つまずいた人」に対する支援の結果としての効果であるという考え方が重要であると感じた。

置かれた環境によっては、自分も犯罪者になっていたかもしれないという話に共感した。他人事ではなく、「自分事」として考え、支援する必要があると思った。

被害者の方の苦しみに責任を果たしながらも、犯罪をした人が生きてゆける環境づくりの重要性を学んだ。

司法という立場だけでなく、さまざまなアプローチを通じて対象者を支援することは大切であり、保護司も法律だけではなく、地域の施策やコミュニティーに目を向けた支援の必要性を強く感じた。

再犯防止には、「居場所」と「出番」が重要であることを学んだ。

犯罪をした人の更生支援を一般に啓発していく必要性を感じた。

※意見については、部分的に修文してあります。

##### イ. シンポジウムについて

当事者の声を聞けば、「どこにでもいる人」であり、「犯罪者」というレッテルは、本人不在のままひとり歩きしてしまう。その人を知るということを大切にしたい。

シンポジストの活動内容を聞き、自分も何かできることはないかということに考えが及んだ。

更生して社会に出たときにどのように生きるか、周りからの支援をどのように得るか、今後の課題を痛感した。

つながることの大切さと、つなげることの重要性が、あらためて理解できた。

※意見については、部分的に修文してあります。